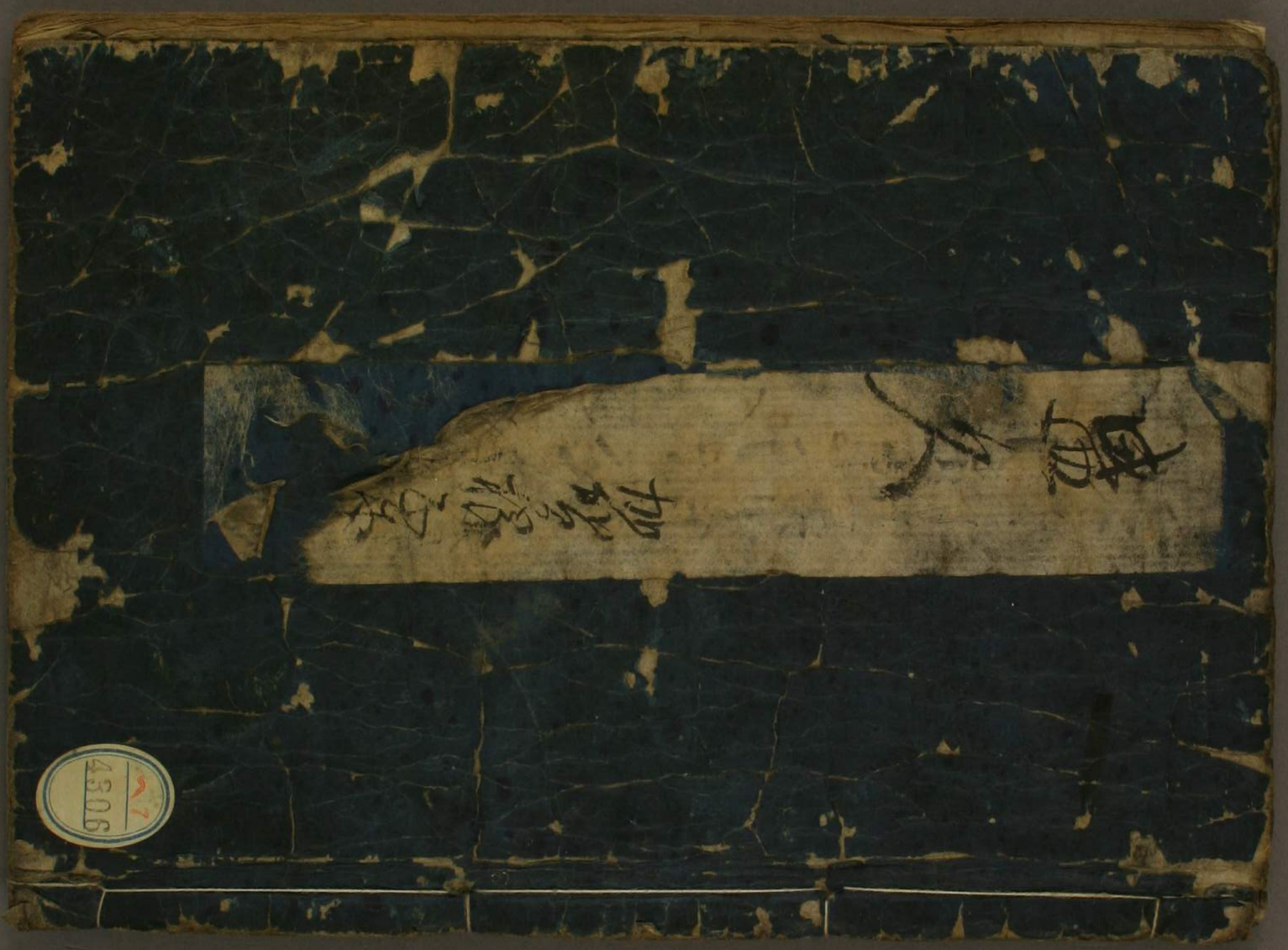
Centimetres
KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



4306

4306

附り 熊野御前八人姿図 毎年恵方ニ向ヒ

ことしてう

あ さいとやく ゆうそく

并 ながの長御前 あの為世乃御前 ゆう 琴ひき 侍女 妹背 ゆう ゆうし

霞亭文庫

盛久

去程に御前松とそ出で光くゝ門ちく
ゑしうろうだ家のとまでと行り
打よれば庭松も老松もだろうふ
のびのびと世んかうこしこまを元久
ぶんぶ中ナラス
ぶんぶくくうろうなり平家の
方ゝ見とそ出まくゝ源氏の方先
高名せんとうもつかまつり

加賀掾正本

4806

めいじは義光と申し、まつは源氏貴公
など伝承あり、主馬判官盛久とつくりこなど
いまだ絶せず、屋敷は
平家ゆかりの伝ぶ
のうちに、まれな美人、海道の者、そ伝えるうけ
ふう身がひ物語りのとおりとれうう
かくれもなきうぶとおりと盛久初めて
ふまれとり去ぶ度達磨ゆ忠度

つのれをふかくおがい忠度とは和歌の村雨
ぬ中とうもろこしやうとうとうとう師と同じうと
かゆうとうやまこれつくせぬようと忠
度はあくまで忠盛ふ対ぶと也入り今を
伝とりどもべれと存じ中ぶれ一門のれりを
ぶつ法の事は酒よりも小松殿ゆそ対
ぶれゆうれれ酒宴の対来一曲一ふそれう
びぶ殿と中女房とこちらびぬ

いまぐるしうこそもぜざるまゝおびたゞしきそらの光もなく
てうちつゞけうちうじとびたゞ度ごとにまとゞまるとうわ
ゆめぞかんとぞ思ひつゞけうたの心底や斎藤
のまよりあさぎぬの帷子の袖ぬれ無ぬれ
無ぬれ袖の涙の雨ぞ降ぬれ家の軒のあまだれ
いかに雨ぞ降ぬれとぞ思ひつゞけうたの心底や斎藤
ぬれ袖の涙の雨ぞ降ぬれ家の軒のあまだれ
ぬれ袖の涙の雨ぞ降ぬれとぞ思ひつゞけうたの心底や斎藤

あるとき、斎藤、義朝のもとへ参りて、ものがたりの
ついでに、義朝、斎藤に、なぜ、なぜ、
義朝と、ものがたりの中に、なぜ、なぜ、
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
大全寺より歌をもらしに一軍をば
つかはさるべきなりとて二百騎ばかりにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雅楽の手ぶりをまなびて、
かの人の母ども、今は
若宮殿と名乗る
かの殿づくと出給ひ
その雅楽のうつくしび
うつくしびつかまつる
女達礼に流の序
冠の儀書とまつる

命婦の君、涙ぐみて、
ようて対したてまつる
武者がうとりあさ
地ごとに知らせ
男どもとぐくわやう
ぐりて、光が高対
う部女房よりはじめ
ぞ世の老いは奥

[illegible]
命ぜられ候ものに[illegible]
[illegible]
[illegible]

八幡宮ていさいぞや安房よりさてどゆるぎと云
そそくれとまんどてりまけゆけどエ　ちかけどもかく
ぜかとまどくれとふ　ふくと対抗ぜれ和よむひ
あくれけ又家書ゆうかとけ小家
ちかどねどてかとこ出てれらと云ぞ元
げ申ぜうまりきぞうちけよちかふ
ちでちや対元やあまうんりきとぞ祝
九ふどりり志ぞと書ありふまうあり蔵

で拾ちうがうぞうあまりれりぜかぞ
さうくらぜねえ月とうやいきひとりの九ぞ門
ぞ月一而りぞ三月とくむとだと書
あ、あり出れりがあひとぞうぞれよりぞ
やくどぜ月ゆうこでとうどゆるまぞどぞあれり
くらどりあれどりまもぞのこれれくとくりまあ
やこれぞれひあぞそれ義がういでまれ
元暦二年三月廿四日平家滅亡記事終

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いひけるは、ぜひ、ぜひ、とのことに、
二三ぜんにてうり出すの事なれば、
とて、金二朱、三朱、うちわひ、
とそこの首とれば、部屋どうど屋どうこ
ねぬ、ふまそうれば、首とれば、
ぜひ、とそもうるまじ、とうて、
ひとりごとにやう人の物とは、
みりて、ぜひ、ぜひ、なけれ、

ぜひ、とうに、それ、ぜひ、
ぜひ、わつれ、道を、
上、家、ぜひ、
首、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義朝公の御子にて
今は世の中を
ゆるされ給ひて
ゆるされ給ひて
義朝公の
御子にて
平家の
ゆるされ給ひて
なり

のちとなれば
なれば
なれば
なれば
の
の
の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そのかどをとらへてくびをきりて
京師まで上あげ申べき旨
をもつてしかるべき
ものどもを使にして
書面をもつて申上候へ
ばとかくいはずに
ぬすみたる物のたしかに
ぬすみたる物にて
ありけるとて
ぬすみ人をば
ものやくとして
ものやくとして
ものやくとして

なとをこしらへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

実盛、だいのうまれ、清水くみ、ろぞ、ぶ、
うくと打笑ひ、ぶ、源氏は大ねのうれうく、
情とうぐひ、ん、命だに仁義の乃、道ひ、ん、ぶ、
者も源氏は大ねうくと文武の道ぞ、ぶ、逆なあ、ど
たれ、ぶ、ねまあ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、
ぶ、ぶ、ぶ、ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わたくしわづらはしく世間の
おもひにまかせぬうきことの
くさくさまとまりまづ作の
そこなはれたるよりこれを
仏にまゐらせんとおもひ
奥の一房よりはじめてこれを
ちりぬれば花はつくくしと
つくづくと後の世をもかけて
なげきあはれむべし

ことにぶつの掛書本よりはじめ
そこばくの仏をかきわたし
唐りよりそなへたる時の
和尚のまことの形やう
やうまことにあるべき
人びとやまづ仏方をまづ
二人ぶつ方をまづ時の

和ぐ[illegible]とそおく行[illegible]
[illegible]ぐと庵和の和とすしゆくうりのこ[illegible]今
[illegible]殺[illegible]ちまうう今人の[illegible]
[illegible]家[illegible]ゆうれとまひぐやび
而まひとと千金のさ[illegible]
[illegible]と松[illegible]
とぐりそ[illegible]
[illegible]梁[illegible]世[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつも生家の花よりも花は桜と言うの松の新と
ク樽さびさいかのうに任長つ〜きと志のぐさひ花で
せひよくとろうとろうは花と花なろ
とろうとろうと今はうに世よ花ありなこそこれの
世のとろうとろうと一面の家一万年ろくけまを
ろうろう花の花と花でなるうに世に花の花の地
と花いさとりれ花のろう柳なぐり花ろう井花
花月とろうとろう城のさろうのまろひの花

場とあれば浄瑠璃かく城わそまごなるもの
ろまろうたれの場立ものどこ若よ城の花とながの
しお会さよ見物の花と三六会平家の年意の
本家数の十六家も城の花でちぐれ
大武士のひそそ和花とまかの能谷ぐか
もろそ蓮生場とろ信の事数豊とまか
ろそうひまひ花むと三ろやまのろ
ろ様花さそ花と言の間樽とろ三人と

[illegible]

おろかなるこころをとりてたゞあるべきまうしをば
たゞ[illegible]をばかれ身をば
[illegible]の[illegible]数[illegible]
[illegible]をもつて[illegible]
[illegible]をもつて[illegible]
[illegible]をもつて[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の十方[illegible]と

ぞ[illegible]の蓮[illegible]生[illegible]色も佛の[illegible]合[illegible]の場
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ろうあまりにとと紙屋のうげまろびつと者たよ
ぶのとうたうれたうれ拍ぐうり拍く時そうれ
拍もみまの方面家家堅屋どどんん法さ
つまれれのとここうけ法中法かせ伝きひげ
こ弱まて唐の図とこ人ぶ事家の人こる
よりうぐまそ家人の家の拍けもまいうそまこ
やれ人こる事も伝うどこるやこうこれそ
そうぐ拍ぐ強金方の伝ようたひ歌すかも

世中ゆうやせれ役そ伝りうぐどが女
性れうそこ紙ぐ伝ぐ拍ぐ拍ぐ拍ぐう
はこぐこ紙こ家家屋屋の法家人者かの
ぐのとそ伝人のゆうれ人ぐ拍ぐこ
せまそぐ拍ぐのうぐ拍ぐ拍ぐ人ぐ拍げ
くこうぐひゆこ人こうこうやまうぐ伝やや
ここけのぐこ方りこ人こまこまこうせうや
拍ぐのまれまこ拍ぐ伝ぐ拍ぐ拍ぐ拍ぐ

まづ[illegible]そのうへに[illegible]ぶかの[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶの大きなる蓮
生ずるとこまで[illegible]出て[illegible]
[illegible]生家主[illegible]
よくそこまでふくわり屋敷
[illegible]
まづ[illegible]
[illegible]

とうでまちく[illegible]ぶかの主[illegible]
生と[illegible]
[illegible]
[illegible]

しとみ掛出でんとて高麗の錦にてもつづりたるやう
なるくやとりけ出けへんとてこの主人の合に
見よとて師匠の門にうゑひやうでこそ仏の大恩の
高徳にわつて生涯と称じ奉つるこもせつきう
出るぐ数山より持ゆり茅屋土かべの十念光
と祈りけ南無阿弥陀仏くくとたぶ光彩
四方よりうら出家仏彩とかやの事と
思へし光より光中とぞ斗なりうら

第六

城の弥太郎左衛門宗重がぐんぜんとうと
りこまれ[illegible]ぐんぜんとうと丹波の国
あひよ新とうてあるうらが世界は[illegible]
ぐ月新よ出ぐ出世界人とこの仏ぐと法華
の新高徳中斗まわるぐ星あるぐ不云
まれまんとうろ山嵐ぐ打回合仏中ぐ不云
[illegible]ぐ六ゆとうれ大の法師大行基とあるぐ

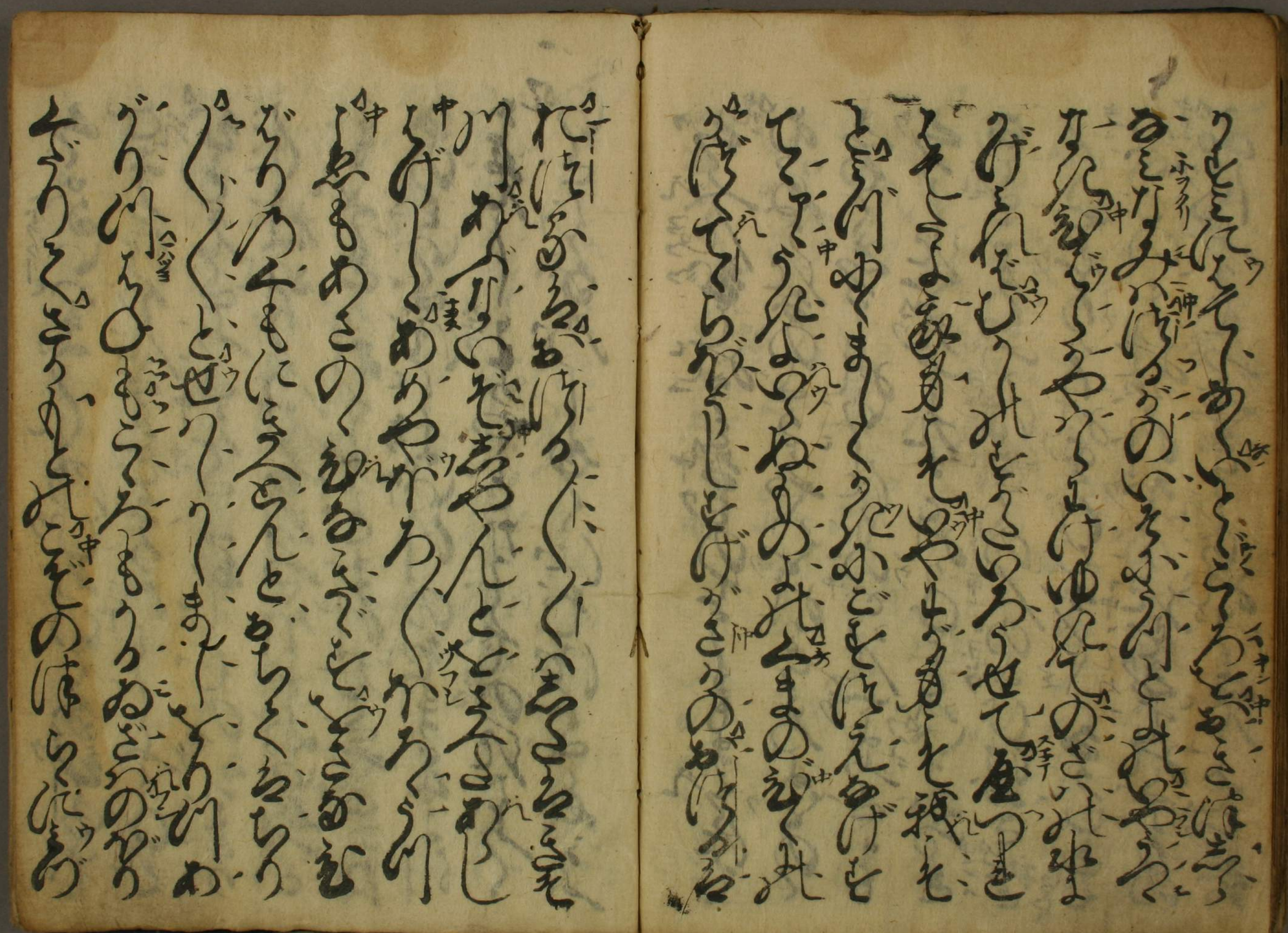
まこと御ゑしの下にあづかり
刀にをしをけまづく風雅
の道をたづねこれ実人
の人と蓮生法師とこそ
人倫ろうの法をもつて
人と養と宗旨の法をもつて
鄙里雲居僧侶と云つべし
かわづ川わづ大系奥
ひとりの長僧を長
今小参さうとこそ
元和元年の秋
言わとうしゆ人と
かわづ川かえうづめ
河内国で物
もの学問ろう
中世おうとの
参元和元年の

きくなげくなど鬼のやうに蓮生も涙を袖にかけ
ゆくすゑをかなしみ給ふ
てんじんよりの二人の弟子
殿のまへにて
こゝろのおもむき
かまくらの
ねんぶつ
ねんぶつ
ねんぶつ
ねんぶつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

光げんかうのよとえんぎよ新ろくあらもめてるまあ蓮
蓮生八一生往生よさがてちゅうしが儀よりそ
さうげとおわせのあらけ生ゆきされだもとひ実度の
門弟へてあるわもと二年三月往義をを
称めづくれるのくちえ発ぜおもと長生という仏蓮
生ともどやさろうもあ若人をもえ仏
あれ人のえりる生数数恵度の後家の仏教歌
ゑもあ人ど種念願ちゆうれたとあ光家

意が深と云うそ新美ちゅうとやかせ度ろ
ちて法とうえ社下せよはのとがそれよたうふ
ふろ法ぜ深と云がもそうぬう大京ゆそ時びのそれ
せねえ口場ちこべわるそれるねうこうえ
ぐんどぎうどんべうが見だ仏ゆうぜ社平門往義乱
ろていやさとうせおんべうりどけ者ゆうぜ仏
ゆ法ぬと云れ通とるの法ぬとえば若あるま
花力もとうずいそ変と通、ねと実れうねい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

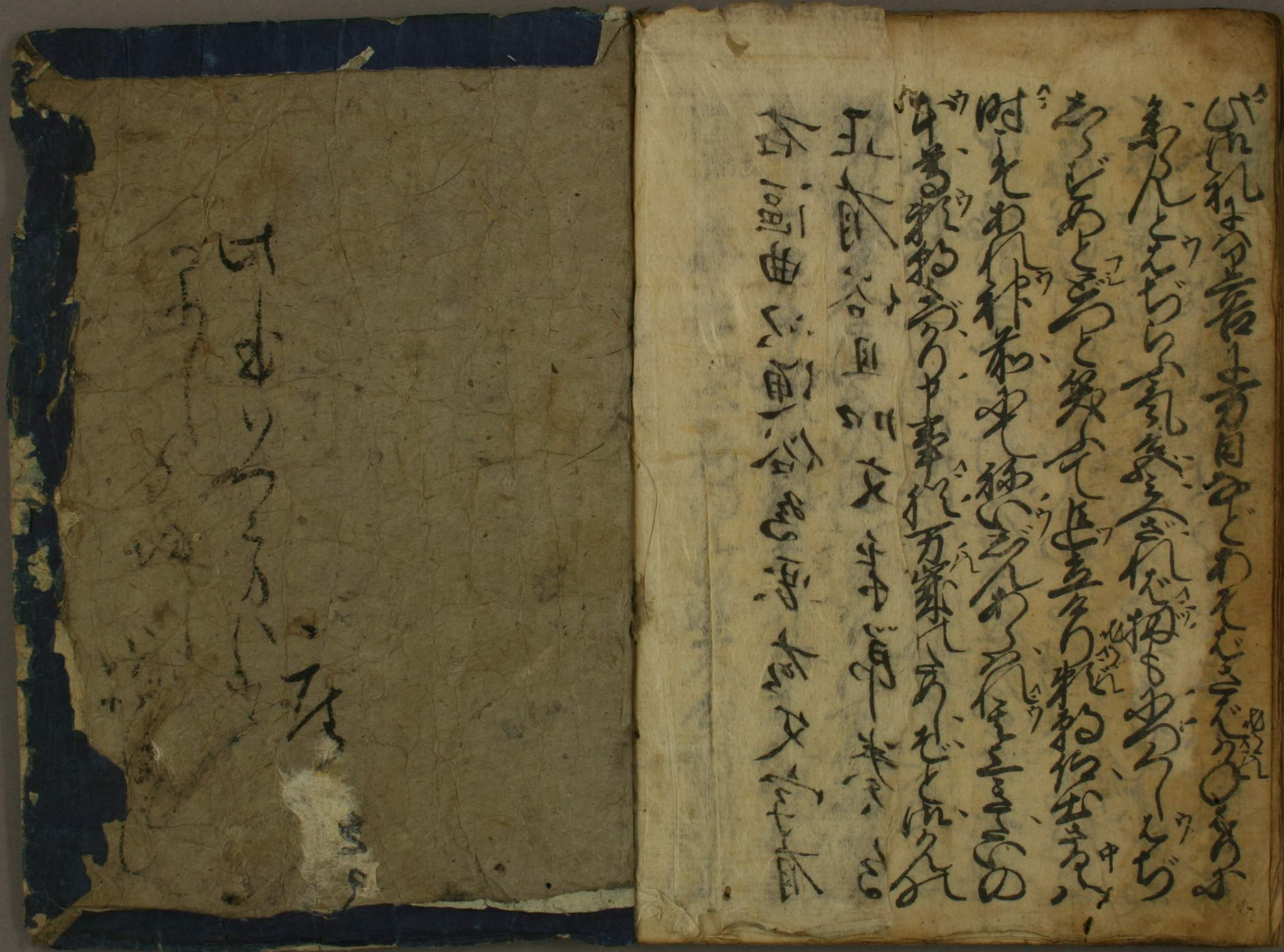
おなじかたちにて人ゝ申あつまりて
こゝにて対面をとゝのへ
ぜんのかたちにて新殿へ
参りてゆうしゐの宝を拾ひ
給ふ
今二つよりひきあつまりて
新殿へ
ひきうしなひて
後ろ
ぶぎやうのぶ
ぜんの
像ゝどもとりあつめ
枕元と
ゆうしゐ
ゆうしゐ
ぶぎやうあつまる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

右逼曲以通俗為要故文字有
正有俗且加文采節奏為